

キラリ! サステナビリティ活動



藤沢サステナブル・スマートタウン文化祭 2022 に参加しました! ~服の交換会~

三井住友信託銀行は、パナソニック、三井物産、三井不動産レジデンシャル、東京ガス、電通等との共同事業として、パナソニックグループの工場跡地(藤沢市)を活用した「まちづくり」に、金融機関として唯一参画しています。2022年11月、3年ぶりにリアル開催された地域コミュニティイベント「藤沢サステナブル・スマートタウン文化祭2022」には3,000名以上が来場しました。今年の文化祭テーマは「会えるよろこび、つながるよろこび。」で、当社は(株)ワンピース様ご協力の下、「服の交換会」のブースを出展しました。

「服の交換会」は、自分の大切にしてきた洋服に想いを載せて、次の誰かに「託す」イベントです。ファッション産業は、服飾を生産・輸送・廃棄する過程で、大量のエネルギー・

水・プラスチック・CO₂を使用、排出するため、環境負荷が2番目に大きい産業といわれています。本ブースは、地域で楽しみながら「循環型ファッション」を体感いただきたいと企画しました。持ち込んだ洋服と同数を交換できる参加費無料のブースには120名の方が80点の洋服を持参、ほぼ同数が新しい持ち主の手に渡りました。来場者の方からは「捨てるには惜しい洋服を持ってきました」「普段は選ばないデザインの洋服に出会えました」「新しいエコな取り組みを応援したい」等あたたかなコメントを多数いただきました。



当社が出展した「服の交換会」ブース

廃棄をなくそう!

カレーでおいしく食品ロス削減



白菜の甘みたっぷりのカレー

“カレーでおいしく食品ロス削減”を提案するハウス食品グループの『もっとカレーだからできることプロジェクト』から、冬の季節にご家庭で余りがちな「白菜」をおいしく食べられるカレーのレシピをご紹介します。

材料(6皿分)

ハウスパーモントカレー<中辛>..... 1/2箱(115g)
豚肉(ばら).....200g
白菜..... 約1/8個
えのきたけ..... 1袋
水..... 400ml

作り方

- 1 豚肉は一口大に切る。白菜は芯の白い部分は1cm角に切る。葉の部分はざく切りにする。えのきたけは半分の長さに切り、小房に分ける。
- 2 しっかりふたのできる厚手の鍋に1の白菜の芯、えのきたけ、豚肉、白菜の葉の順に重ね、ふたをして、弱火~中火で約10分蒸し煮する。
- 3 白菜から水分が出て豚肉に火が通ったら、水をたし沸騰したらいったん火を止め、ルウを割り入れて溶かし、再び弱火で時々かき混ぜながら約10分煮込む。

使用した商品



もっとカレーだからできることプロジェクト

レシピ提供:ハウス食品グループ本社(株)
※禁無断転載



表紙の
作品解説

次世代が描く SDGs

東京都立新宿高等学校

「伝統の江戸東京野菜『内藤とうがらし』」

三井住友信託銀行新宿西口支店・新宿支店では、東京都立新宿高等学校に対し『新宿学』という学習のサポート役として、区内の企業訪問先の紹介など「校外での学びの場」を提供しています。『新宿学』とは、新宿の歴史・文化や企業等による地域の発展について調べ、持続的な発展に向け生徒自らが問いを設定し解決策を考えるという同校独自のプログラムです。

表紙の作品は、グラウンドで栽培されている内藤とうがらしとそこから見える新宿ビル群です。内藤とうがらしは、江戸時代に宿場町・内藤新宿で栽培され一大ブームとなるも明治以降に途絶え、近年復活プロジェクトが進んでいます。

「地域と人が結びつき、新宿を元気にする」というプロジェクト目的に賛同し、作品のメインテーマに起用いただきました。



東京都立新宿高等学校の皆さまと内藤とうがらし

SuMi TRUST WithYou



SPECIAL TOPIC スペシャルトピック

気候変動問題に対して 私たちができること

プラスチックとの
上手な付き合い方

キラリ! サステナビリティ活動

藤沢サステナブル・スマートタウン文化祭
2022に参加しました! ~服の交換会~

廃棄をなくそう!

カレーでおいしく食品ロス削減

白菜の甘みたっぷりのカレー



東京都立新宿高等学校生徒作品「伝統の江戸東京野菜『内藤とうがらし』」

当社のサステナビリティ活動はこちら ▶ サステナビリティサイト



支店ブログ



気候変動問題に対して私たちができること

プラスチックとの上手な付き合い方



執筆者 サステナビリティ推進部 テクノロジー・ベースド・ファイナンスチーム 小中 洋輔、青柳 拓也、呂 梁

三井住友信託銀行は、事業を通じた社会・環境問題の解決に取り組んでおります。特に、昨今話題となっている「気候変動」は、問題解決に資する専門チームや組織を社内に設置するなど、非常に重視しているテーマです。今年度は計4回、この気候変動問題に関わる動向について、社内の専門家が分かりやすく解説してまいります。第3回は、私たちの生活に欠かせないものの、気候変動問題の原因である温室効果ガスの排出や、海洋プラスチックのごみ問題など昨今話題になっている「プラスチック(以下、一部プラと表記)」について取り上げました。本紙がプラスチックとの付き合い方を見直すきっかけになれば幸いです。

● プラスチックの歴史

世界で初めて工業製品化されたプラスチックは、1870年頃にアメリカの発明家のハイアットが発明した「セルロイド」だといわれています。当時高価だった象牙の代替材としてビリヤード玉などに広く使われたそうです。その後大量に使われるようになったのは、1960年代以降、石油化学コンビナートから製造されるようになってからで、ごく最近だということがわかります。

軽い、耐久性が高い、加工しやすい、安価であるプラスチックはさまざまな用途で使用され、私たちの生活を豊かにしてくれました。例えば自動車部品は重い金属からプラスチックに置き換えることにより燃費が向上し、ペットボトルの発明により安全な飲料水を長期間保存・輸送できるようになり、食品包装が酸素や水蒸気を遮断することにより食品の賞味期限を延ばしてくれました。プラスチックの歴史はおよそ60年と浅いですが、既に私たちの生活になくてはならないものになっていることがわかります。

● プラスチックの現状と課題

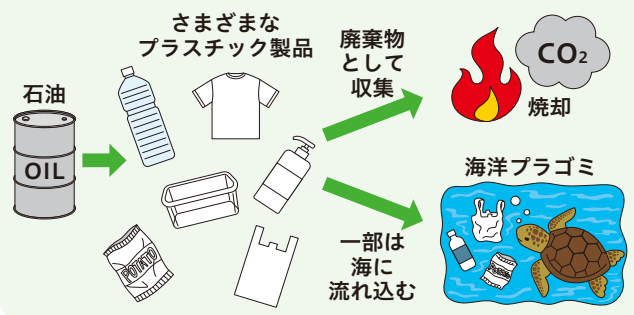
私たちはこれまでプラスチックの利便性を享受してきた一方で、大量生産、大量消費、大量廃棄により、昨今、主に2つの問題が顕在化してきました。

1つ目は気候変動問題です。プラスチックは石油などの化石資源からつくられており、現在日本では使用後のプ

ラスチックの70%以上は焼却されています。プラスチックを焼却するときに温室効果ガスであるCO₂が排出され、気候変動の原因となります。

2つ目は海洋プラスチック問題です。環境中に捨てられたプラスチックは川などを經由し海へ流れつきます。プラスチックはその耐久性の高さから自然環境ではほとんど分解されないため、海や沿岸にどんどん蓄積されさまざまな問題につながります。世界では毎年800万トン流出しており、2050年には海に生息する魚の数よりも多くなるという調査結果もあります。未来の豊かな地球環境のために、これらの問題に真剣に向き合うときが来たのです。

● 図1 プラスチック製品の現状と課題



● 課題解決に向けた動向

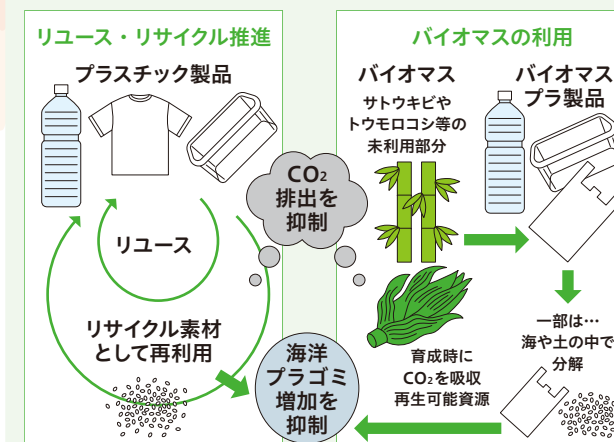
このような課題の解決に向けた取り組みを3つ紹介します。

1つ目はペットボトルのリサイクル利用についてです。日本ではペットボトルの回収率は95%以上と非常に高く、

ペットボトルの85%は衣類、卵パック、ペットボトルなどにリサイクルされています。リサイクルすることでペットボトルを焼却した場合と比べてCO₂排出量を42%抑制できるという報告があります。回収する文化により環境流出も最小限にできています。

2つ目は石油の代わりに植物を原料としたバイオマスプラスチックという新しい素材です。植物は成長の過程で光合成によりCO₂を吸収します。たとえバイオマスプラスチックを焼却したとしても、植物が成長過程で吸収したCO₂の量と燃焼で排出したCO₂の量が相殺され、実質的にCO₂を排出しないと考えられています。また、バイオマスプラスチックの中には生分解性プラスチックと呼ばれる海や土壌の特定の条件下で微生物により分解される種類があり、万一海に流出しても分解されるため環境への悪影響が最小限に抑えられます。最近レジ袋や食品包装など多くの商品に「バイオマスマーク」や「生分解性プラ表示」がついているのでチェックしてみてもいいかもしれません。

● 図2 プラスチック問題の解決事例



3つ目は法律です。2022年4月1日より、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律(略称: プラ新法)」が施行されました。これは、事業者や自治体が、プラスチック製品の「設計」から「販売」「使用後の再利用」まですべてのプロセスで資源循環をしていくための法律です。最近よく見かけるコンビニでのプラスチックスプーンの有料化や、ホテルでのアメニティの提供方法変更など

の背景にはこの法律の制定が関わっています。今後、スーパーでのペットボトルやトレーの回収のように、特定プラスチックの店頭回収が多くなることが予想されます。

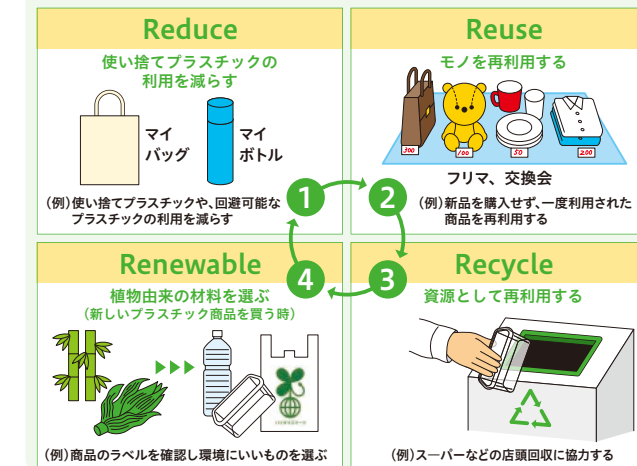
● 私たちができること

昨今、海洋プラスチック問題が取り上げられ、脱プラスチック化が加速する中で「プラスチック=悪者」との認識が広がっているように感じます。しかしながら、プラスチックはその特性から、私たちの生活の豊かさを支える必須の素材となっています。問題はプラスチック自体ではなく、環境のことを考えずに大量消費、大量廃棄することであり、プラスチックと上手に付き合うことで解決できると考えています。

プラ新法のベースであるプラスチック資源循環戦略では基本原則として「3R+Renewable」が制定されています。この4つのRを順番通りに実行することが、まさにプラスチックとの上手な付き合い方になります。

当グループでは2019年4月、2030年までにリサイクルされずに廃棄されるプラスチックをゼロを目指す「三井住友トラスト・グループ プラごみゼロ宣言」を策定しました。「お客さまにプラスチックを出さない」「社員がプラスチックを出さない」ための取り組みとして、お渡しする品物の素材変更、ロビー展・社内勉強会の開催、マイバッグ・マイボトル持参などを推進しています。是非皆さまも一緒に、気候変動等の課題解決に取り組みませんか？

● 図3 4R(3R+Renewable)の考え方



気候変動問題に対して私たちができること

今後の連載予定

1 気候変動問題って何？ 私たちにどう関係しているの？

2 蓄電池と水素が地球を救う

3 プラスチックとの上手な付き合い方

4 地球にも人間にも優しい Well-beingな住まい